



医療
連携

つつし

2018年 8月

33号

東京山手メディカルセンター 〒169-0073 新宿区百人町3-22-1
総合医療相談室 ☎ 03-3364-0366 FAX 03-3365-5951 <http://yamate.jcho.go.jp/>

TOPIX

- ▶ 病院長就任にあたっての御挨拶／院長 矢野 哲
- ▶ 着任のご挨拶／副院長 橋本 政典
- ▶ 設立3年目を迎えた「地域診療・救急部門」について／
院長補佐、地域連携室長、地域診療・救急部長 笠井 昭吾
- ▶ 総合医療相談センター・入退院支援室／看護師長 伊藤 恵

病院長就任にあたっての御挨拶

院長 矢野 哲



平成 30 年 4 月 1 日付けで病院長を拝命致しました。私は昭和 55 年 3 月に東京大学を卒業し、産婦人科医として診療、研究、教育を行ってきました。東大病院在籍中は、東京都で最初に体外受精・胚移植などの高度生殖医療を日常臨床として軌道に乗せ、さらに腹腔鏡手術の立ち上げにも参画しました。産婦人科准教授・女性外科診療科長として 10 年間過ごした後、平成 25 年に同じ新宿区内の国立国際医療研究センター病院に異動し、この 2 年間は大学同期で辣腕の大西 真病院長のもとで副院長を務めました。病院の財務、経営、人事について大西病院長から多くのことを学びました。御縁があって、万代恭嗣前病院長の跡目を継ぐことになりました。

当院は昭和 62 年 5 月に、新病院として大久保通り沿いから現在の地に移転しました。私が大学で体外受精・胚移植を始めていた頃で、時々外勤の産科医として新築の病棟で夜間当直をしました。古風な大学の建物に比べて、何と斬新で綺麗な建造物であったことか。平成 26 年 4 月に全国の社会保険病院等（社会保険病院、厚生年金病院、船員保険病院）は、独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）が直接運営する病院グループとなりました。当院も「社会保険中央総合病院」という名称から「東京山手メディカルセンター」に改称しました。

これまで当院では、内科、外科、大腸・肛門科、整形外科、産婦人科などをはじめとする多くの診療科の優秀な先生方の指導のもとに、区西部二次医療圏の急性期病院として最善の医療の提供に邁進して参りました。現在も国内最大級の炎症性腸疾患センターを擁する消化器内科、大腸肛門病センターを擁する大腸・肛門科、腹腔鏡手術の得意な消化器外科、カテーテルアブレーションによる不整脈治療が得意な循環器内科、あらゆる特殊な呼吸器疾

患に対応できる呼吸器内科、整形外科領域全般をカバーできる整形外科と脊椎脊髄外科等々、一騎当千の優秀な専門医がそろっています。その他の診療科の部長も優れており、最近刷新しました当院ホームページの診療科案内のサイトを是非御覧下さい。救命救急医療においては、総合診療医と領域別の専門医が協働する地域完結型医療に取り組んでおります。また、私と共に国立国際医療研究センター病院から乳腺外科の橋本政典先生も副院長として着任しました。来春には、形成外科と精神科を新たに立ち上げます。暫定的に形成外科は毎週火曜日、精神科は毎週月曜日に外来を開きました。昭和 22 年 11 月に「社会保険山手病院」として内科、外科、産婦人科、歯科の 4 科で始まった当院も、これで日本専門医機構が定める全診療科目がそろうことになります。乳癌手術時には、乳房同時再建も可能になります。また、昨今急増している精神疾患、認知症を合併した患者の皆様にも対応できるようになります。産婦人科においても内視鏡手術や婦人科癌手術の専門医を迎え、さらに幅広い医療を展開して参ります。2020 年の東京オリンピック終了後に医局、研修・事務区域を除いて、まずは入院病棟機能のすべてと外来機能の大部分を敷地内に隣接して新築する構想を持っています。

当院は地域住民の皆様健康増進と疾病克服に対する多様な御要望にお応えすべく、地域の先生方と協力して医療・介護・福祉等のサービスが滞りなく提供できるように努力していく所存であります。私の実家は江戸時代には藩の御典医を務め、明治の世に入ってから市井のいわゆる総合診療医として主に在宅医療に関わってきました。地域医療・在宅医療に携わる先生方に対しては特別な sympathy を抱いており、先生方と共に地域包括ケアシステムを円滑に構築して参りたいと考えております。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



私は文京区目白台にあった東大分院外科の出身で、平成14年に国立国際医療センターに赴任し15年間この新宿の地で救急医療を含む外科全般の臨床に携わってきました。最近では専門の乳腺外科を中心に診療させていただ

いております。このたび矢野哲院長の着任に伴い、平成30年4月1日付で副院長を拝命致しました。新宿区での診療も長くなり医師会での活動を通じて、地域の医療を支えるために真面目に取り組んでおられる開業医や病院の先生方が多いことに感銘を受け、微力ながら協力できればという思いで、これまで地域医療に携わってきました。私は以前から東京山手メディカルセンターは地域の皆様の信頼が厚い病院と認識しておりました。当院は今後も間違いなく地域医療を支えていく上で大きな役割を担うことができると確信しています。

また、炎症性腸疾患センターや、クローン病に合併する複雑な痔瘻の手術も多く手掛けている大腸肛門病センター（大腸肛門外科）は日本屈指の診療技術、経験を誇り、当院の大きな特徴となっております。今後もこれらの特徴ある高度な診療技術を維持できるようサポートし、地域医療のニーズに応えられるよう努力していく所存です。

私は前職でがん診療・手術室運営・患者サービス・医療情報システム・バイオバンクなど幅広い病院機能の整備に関わってきました。またその過程で個々の職員の技量や努力などのいわゆるソフトウェアによって達成可能な快適性と、やはり建物や物品などのハードウェアが充実して初めて得られるアメニティがあることを理解しています。利用者の満足は同時に職員のやる気・意欲にも繋がり好循環を期待できます。そのためには病院経営も重要であると考えています。

連携医の皆様の期待にお応えし、より多くの方々に当院をご利用いただけるよう、患者さんが快適に安心して安全に医療を受けられるのはもちろんのこと、職員も余裕を持って最適な医療が提供できるよう環境づくりをしていきたいと思っております。患者さんからお聞きになったこと、またはご自分でお気づきの点がございましたら、施設・サービスの改善に役立てたいと存じますので医療連携室の方まで忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

また遅ればせながら当院でもいよいよ診療支援システムから電子カルテに移行し、紙カルテを廃止していきます。これにより各部門で効率的に情報共有が行えるよう

になり、特に救急診療においてカルテ移動などでお待たせする時間も減ることが期待されます。

最後に少し外科の紹介をさせていただきます。当院外科は伝統的に大腸肛門外科とそれ以外の消化器一般外科、心血管外科、呼吸器外科に分かれておりますが、それぞれが連携を密にし、高度な外科的治療を行っております。この度私が赴任したこと、形成外科が復活したことで外科の一員である乳腺外科もより一層様々な治療に対応することができる体制を整えました。その一環としてこれまで行って来たセンチネルリンパ節生検や乳房温存手術などより負担の少ない乳房根治手術に加え、インプラントや自家組織による乳房切除後の一次二期再建術も開始いたしました。診断面ではシーメンス社製の3Dマンモグラフィーも有しており、撮影直後に外科外来で5Mパネルにより読影可能な贅沢なシステムとなっております。従来からのBモードをより精細に映し出す機能に加え、カラードブラによるより細かい血流信号、さらにはエラストグラフィといった最新の機能を有する装置による超音波診断にも力を入れています。診断から治療までより充実した乳腺外科と、もちろんこれまで同様、消化器外科の方も病院共々、宜しく申し上げます。



設立 3 年目を迎えた 「地域診療・救急部門」について

院長補佐、地域連携室長、地域診療・救急部長
笠井 昭吾



地域の先生方には日頃大変お世話になっています。地域連携室長、地域診療・救急部長の笠井昭吾と申します。2016年4月より「地域診療・救急部門」＝地域に根差した救急医療を提供する部門を設立し、3年目を迎えます。

当部門は、

- 地域医療への貢献、病診連携の推進
- 日中の救急診療体制の充実（内科領域中心）
- 地域医療に貢献する医師の育成、総合医マインドを持つ医師の育成

これら3つを設立の目的とし、内科始め各診療科の協力を得ながら、日々診療に当たっています。

当部門の特徴は、内科2次救急に加え、かかりつけ医・在宅診療の後方支援の役割に力を入れていることです。先生方の診察の結果、CT検査や血液検査など早めの検査が必要と思われるけれども、病院の通常の診察受付時間に間に合いそうにないとか、どの専門領域に依頼すべきか迷うケースもあるかと思います。当部門は、私が地域連携室長の事務的役割に加え、地域診療・救急部長も兼任し、平日日中のご依頼に対して迅速な対応に心がけています。2017年度の診療実績は以下の通りです。対応患者総数は1,536人（1日平均6.3人）、緊急入院患者数が多いのが特徴です。新宿区の取り組みである在宅緊急一時入院病床確保事業にも協力しており、2017年度は76人の受け入れ実績があります。

【2017 年度診療実績】

救急搬送数	紹介患者数	在宅緊急一時入院数	緊急入院総数
624 台	359 人	76 人	516 人

紹介患者さんの内訳ですが、80歳以上の高齢者が60%以上を占め、元々私の一番の専門が呼吸器内科であることもあってか、呼吸器疾患が最も多く肺炎（誤嚥性含む）・間質性肺炎・喘息発作・気胸などにも対応しています。次いで多いのが消化器疾患、消化管出血・急性腹症（イレウス・胆石胆のう炎・憩室炎・尿管結石・虫垂炎など）の初期対応をし、診断確定後専門領域医に入院担当を依頼しています。そして3番目に多いのが在宅診療を受けている患者さんの諸症状、発熱・食欲不振・胃腸炎・脱水症の精査加療依頼です。在宅緊急一時入院制度を利用しつつ、2週間

をめどに入院対応させていただき、かかりつけ医に逆紹介をしています。以下に主な内訳を紹介します。

【紹介患者さんの主な疾患】

	呼吸器疾患	消化器・急性腹症	在宅緊急一時
紹介数	109 人	96 人	76 人
	肺炎：70 人	胃腸炎：25 人	脱水症：18 人
	気管支炎：10 人	急性腹症：24 人	発熱精査：15 人
	間質性肺炎：8 人	上部消化管出血：16 人	

当院は各診療部門の高い専門性を自負していますが、必ずしも専門性ばかりでなく、総合医・家庭医マインドを持ち、地域の後方支援の役割も重要と考えています。困ったときに気軽に相談いただける部門を目指し、今後も診療に取り組んでいきますので、何卒よろしくお願いします。

翌日の内科通常外来まで待てない患者さんは、地域連携室にご連絡下さい。初診の場合でも診察券発行やカルテ作成をあらかじめ行い、地域診療・救急部門で迅速に対応させていただきます。連絡先は以下の通りです。今後ともよろしくお願いします。

【地域連携用・直通電話】

03-3364-0366（月曜～金曜日 8:30～17:00 受付）

【地域連携用・FAX】

03-3365-5951

※ FAX は 24 時間受け付けています。

※夜間・休日は【病院代表】03-3364-0251 にご連絡下さい。当直対応となります。



総合医療相談センター・入退院支援室

看護師長 伊藤 恵



ごあいさつ

地域の先生方には平素より何かとご協力を賜り心から感謝申し上げます。また、日頃より患者さまのご紹介を賜り、重ねてお礼申し上げます。

私は、このたび伊藤美智子師長の後任として2018年4月より総合医療相談センター・入退院支援室看護師長として任命されました伊藤恵と申します。外来看護、病棟看護、退院支援の勤務経験を活かし医療連携の推進に努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

当院では平成16年に総合医療相談室を設置し、JCHOの理念をもとに地域の中核となる病院の活動を行っております。患者さまのかかりつけの先生方、地域の医療機関との連携を深め、患者・家族のみなさまにとって最良の医療を提供できるよう日々心がけております。

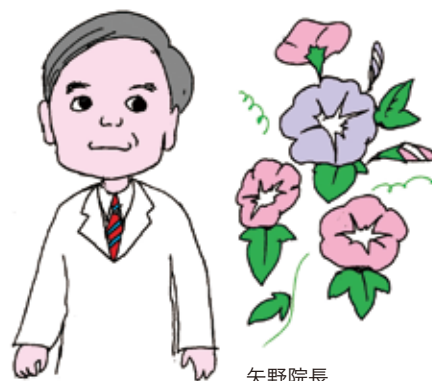
現在の総合医療相談センターは、センター長（医師1名）、副センター長（医師1名）、地域医療連携室長（医師1名）、入退院支援室長（医師1名）、患者相談室長（医事課長1名）補佐（看護師長1名・事務係長1名）、室員（看護師3名・事務5名・社会福祉士3名）体制で業務を進めています。急性期医療を担う病院として、今後も地域の開業医の先生方や医療機関との連携を図りながら地域医療に貢献し、患者さま中心の医療を行っていく所存でございます。ご紹介いただきました患者さまが安心して、診療、検査、入院を行えるように、診療結果や検査結果等の情報発信を迅速に行い、治療後は患者さまを紹介元の先生方へお返しいたします。

また、地域包括ケアシステムの構築に向け、住民の方々が住み慣れた地域で生活していけるよう、医療・介護生活支援が一体的に提供される切れ目のない医療の仕組みが必要になります。当院では、平成29年8月より退院

支援専従看護師を導入し、平成30年度5月より入退院支援室を設置しました。患者さまが安心して入院生活を送れるよう、また、住み慣れた地域で継続して生活できるよう支援させて頂いております。

患者・家族のみなさまが受診しやすい病院、地域の開業医の先生方が紹介しやすい病院、そして、全ての方々に満足して頂ける病院であることを目指し、スタッフ一丸となり、今後も活動を進めていく所存でございます。

今後とも先生方のご意見・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



矢野院長



東京山手 メディカルセンター

〒169-0073 新宿区百人町3-22-1

総合医療相談室 ☎ 03-3364-0366
FAX 03-3365-5951
<http://yamate.jcho.go.jp/>



この冊子は環境にやさしい有害廃液の出ないクリーン印刷で作成しています